

連載小説 第5回 (最終回)  
「ドリブル 10人のサッカー部」  
作：橋爪 栄

前回のあらすじ Aの三流高校と恋敵ZのY高校、サッカー試合が始まった。W子の前では決して負けられない…、さて？

Aのユニフォームの背番号はなぜか17番。赤いユニフォームだ。

Y高校が先にフィールドに立ったが、Aはチームメイトに言った。「まだ、いくんじゃない！ ゆっくり行こう。」それは相手をいらいらさせる作戦だった。多分宮元武蔵の本から作戦を得たのだろう。そして、AはZ君にマンツーマンディフェンスをするつもりでいたのだ。W子も試合を見に来ていることもAは承知だった。少しもっていて、少し寒い日だった。Aはラグビーの選手のように受身を三回してからキックオフを待った。こいつがZ君か。「簡単には勝たせないぞ！」と心の中でつぶやいた。Z君は11番をつけている。Y高校のキック・オフで試合が始まった。AはびったりZ君にはりついた。ボールを支配するのはやはりY高校だった。巧みに中盤を組み立てながら、シュートまで持っていく。Z君はボールをキープするとAの密着マークを嫌がった。いつもは、相手がマンツーマンでも平気なのに、Aのディフェンスはボールを奪おうというのではなく、攻撃を遅らそうとするからだ。スライディング・タックルは最後の手段で、姿勢を低くして、抜かれないように慎重にマークした。現代サッカーでは中盤からプレスをかけるのは常識だが、Aの守備は前近代的に見えるかもしれない。しかし、飛び込んでくる相手を抜くのは簡単だが待つことを知っているディフェンスは、Z君はやりにくかったのだ。それでもY高校のシュート数は15でA君の高校は0本だった。それはA君がZ君に密着マークをしているので、他の選手がフリーになるために生まれたチャンスだった。Aの高校のキャプテンがいった。「A！もどっこい！」頭脳的なZ君は、わざと最前線から退きY高校のディフェンスラインまで下がったのだ。ゴールキーパーのファインプレー、他のディフェンダーのよい守備にAの高校は救われていた。しかし、Aが自分達のディフェンスラインまで戻ると、すぐに本領を発揮してドリブルでチャンスを作る。前半30分、Z君がボールを受けると、壁パスで中央突破をかけてくる。Aは、半身になって、パスのコースを消そうとする。そして、間かくを詰めようとしたときである。壁パスを受けようとZ君がオープンスペースに走っていくのを追うと、Y高校のミッドフィルダーがパスをもらいシュートした。Z君はダメージの動きをしたのだ。ボールは地面をほうように強く地面に突き刺さった。そして、前半終了。Aは悔しかった。

ハーフタイムでドリンクを飲んでいると、そのくやしさがA君の全身を包んだ。「点を取ってやる。」そう心の中で叫んだ。Aは学生生活で始めて本格的に燃えた。後半に入ってもY高校の攻撃は続いた。そのことごとくがZ君を起点にしていた。後半7分、Z君のシュートがポストに当たる。

Aの高校は全員が守備にまわった。ほとんど攻撃することを考えなくなっていた。決定的なチャンスは8回以上だった。Aは完全にZ君のスピードに追いつけなくなっていた。いっそのことZ君の足を蹴り上げてやろうかと思ったがW子がみているてまえ、そうはできなかった。スタミナが当然なくなりAはたっていることが多くなってきた。しかし、Aの高校はけんめいにディフェンスをした。

今度はZ君のヘディングシュートだ。それをゴールキーパーがパンでしのいだ。なかなかY高校も追加点ができない。Y高校のディフェンスもあがっていった。良いサッカーが必ずしも得点を加えることができない。それがサッカーのおもしろい所でも、はがゆい所でもある。レフリーがちらりと時計を気にし始めた。ロスタイムはほとんどなかった。Y高校のディフェンダーがシュートにからんでいった時の事だ。大きなクリアボールが、センターライン付近まで飛んでいった。そこに体力を使い果たして立っていたA君にボールがわたった。つまりY高校は攻撃にウエイトを置いてAがフリーなのに気づかなかったのだ。Aは最後の力をふりしぼり直線的なドリブルをした。Y高校のゴールキーパーに向かっていくドリブルだ。ゴールキーパーも油断してて前に出すぎていた。Aは本能的にひらめいた。「ループシュートだ。」

AはスプーンキックでY高校のゴールキーパーの頭上を弧を描いていくシュートをかけた。ボールはぼんやりバウンドしてゴールにゆっくりすいこまれていく。そして、試合終了のホイッスル。Aの周りにチームメイトが集まって荒々しい祝福をする。1対1の引き分けなのにみんなまるで勝ったような喜び方だ。美術の友達も音楽の友達も、本の友達も試合を見に来てくれていて、もちろんW子もいた。

みんな笑っている。Aは幸福だった。W子の事を忘れても、今日のゴールは一生忘れないだろう。と、Aは思った。

おしまい

橋爪さん長い間ありがとうございました

ピアみなとへのご寄付は、  
作業所または郵便局へお願いします  
郵便振替口座 加入者名：ピアみなと  
口座番号：00900-0-330844

【こころ】ダイエット メンバー・職員の区別無く、よく肥えています。体重(Kg)を、身長(メートル)で2度割ったこたえが25より大きいと肥満だそうです。ちなみに身長178cm、体重76Kgの私は76÷1.78÷1.78=23.99。かろうじて25より小さいので、何とか肥満を免れました？ ごろごろしてコーラや缶コーヒーをたくさん飲むのは、肥満と糖尿の元。くれぐれもご注意ください。 職員の間では、体重計を置いて毎日量りグラフをつけようか…、などと話しています。お互いにつらいなー。



### 小規模通所授産施設承認

大阪市長より8月1日付で小規模通所授産施設の設置承認の連絡がありました。

小規模通所授産施設は障害者小規模作業所ワークみなと(港区三先1-8-14)が、7/1よりの設置を承認されたものです。(6/28に大阪市に申請) 現在、障害者小規模作業所グリーンズ(築港)も来年の承認に向け準備中です。

昨年より、特定非営利活動法人 障害者の福祉を進める会みなと(通称ピアみなと)を設立し、本年4月作業所の運営を家族会や市民団体(どちらも任意団体)から法人に引継ぐなど体制を整えてまいりました。

作業所がやってきた生活支援を引き続き小規模授産施設も行います。(市民の理解を得、家族や友人など個人のネットワークを生かすことにより、病気や障害のある人へのよく知った地域での生活を目的としての自然で具体的な生活支援)

これまでは、法的・質的に未整備であった作業所環境が特殊なものとして、運営・管理について大目に見られていました。しかし、NPO法人として認可を得て法に定められた権利と義務を行使でき、運営費補助額の増額(Aランクの場合110万円)・施設整備費補助を利用しての基準に適した施設・職員の労働条件の改善などがされれば、それにふさわしい運営・管理体制が求められます。

ピアみなとでは「作業所は利用者である障害のある一人一人の地域生活支援のための場であり、自己実現を求める場であり、地域社会の中で自己選択と自己決定により自己責任を持てる自分を得ていく場である」という基本を常に認識し実現維持のためにいっそう努めます。

### 社会的存在として

ピアみなとが社会的存在となるために・・・

- 1、個々へのサポートと環境への働きかけ  
利用者の生活が豊かになるようにサポート  
社会生活技能習得のため環境への働きかけ  
そのための職員の職場研修・自己研鑽
- 2、個人情報保護と本人への説明
- 3、正確な会計と情報開示
- 4、施設や事業の社会性  
施設が特殊社会にならぬよう、市民に開かれるよう市民との接触・交流をもつ。
- 5、公益性と利用者ニーズが反映するシステム  
施設を運営する運営委員会などの組織が、ある個人の意思に左右されない。公益性や社会性が高く勝つ利用者の声が反映されるシステムになっていること。

ピアみなとは利用者のための作業所運営と、社会的存在となるように活動します。

文献：小規模授産施設と社会福祉法人設立マニュアル  
財団法人 全国精神障害者家族会連合会ほか 編集

### 9月の作業所運営委員会は

9月20日(金)4時より  
保健センターで行います。  
出席をよろしくお願いします。

★ 寄附や差し入れ・おみやげなどをたくさんいただいています。ありがとうございました。  
★ ピアみなとは社会福祉法人をめざしています。資本金1000万円を準備するために今後ともご協力をよろしく願います。  
現在 正会員数 39名  
賛助会員 10名 です

# 港さざなみ会

9月の家族会・家族教室は

**9月14日(土) 3時より**  
グリーンスで行ないます。

家族教室は保健センターで

**9月20日(金) 2~4時**  
財産管理支援センターのお話です。  
メンバーもどうぞ、小遣いや生活費管理の話です

# ワークみなと

## これからの予定

- 9/4(水) 西ブロック合同レクリエーション  
海の時空館
- 9/15(日) 生き方宣言フェスティバル  
上本町 国際交流会館 バザー参加
- 9/21(土) バトミントンとプール  
希望者のみ1:50 みなとスポーツセンターロビー集合



## 内職このごろ

8月分の工賃も、夏の気温のようにちょっと高い目、先月に引き続きみんな大喜びです。

さて、いつもお世話になっている「リンク」さんからいただく仕事は、紙類を折ったり張ったり重ねたり、時には回したり?といつも楽しくさせていただいています。

今回は新しくいただいた内職のことをお知らせします。6月から精神作業所「西淀川ワークさざらぎ」さんからいただく仕事は打って変わって金属系?の仕事です。石油ストーブの部品だそうです。長い真鍮のパイプにパッキン類を取り付けたり、合成樹脂の部品にO(オー)リングや、パイプ・パッキンをつける仕事、ブリキを曲げた部品にはねなどをつける仕事などです。金属の角で切ったりもしますので前もって指にテープを巻いたり、軍手をはめたりします。

どちらかという、利がよかったり、非常に簡単で早く出来たりの仕事が多いのですが、中には1個20銭のバリ取りの仕事のようにうれしな

い仕事もあります。安くて時間がかかって、30分ごとに交代しながら何日もかかって8000個の仕事をした。どちらかという人気の無い仕事ですが、これも仕事のうちとぐちも言わずにがんばっています。

もうひとつは、弁天の「新胡(しんえびす)産業」さんからいただく仕事です。この会社は観賞魚の飼育のためのものを売る会社です。金魚の水槽に入れる砂利などを小袋に詰めて小売店などに卸しておられます。作業所がいただく仕事は、砂利などを詰める小袋にバーコードのシールを張る仕事です。1枚50銭ですが、見る間にたくさん貼れます。リンクさんの仕事で慣れているのでみんなが出来て人気があります。

得意な仕事をするときのみんなはとても楽しそうです。お話をしながらでも結構能率が上がります。それでいて、月末には工賃も大きくアップ! 最近仕事にける意欲も仕事をする能力もアップしています。内容によっては、抜群の能力を発揮する方もおられます。

体力がついて、休憩時間も減らせるようになったら、社会適応訓練も目の前です。

ワークみなとでは、やりがいのある作業環境と、一人一人にあった環境の就労を目指します。

それぞれの生活のリズムをつかんで、毎日規則正しく、楽しく、快適にすごしましょう。



## 新聞から

朝日新聞の家庭欄に”弱さをきずずに「べてるの家」から”と題して、北海道南端えりも岬に近い浦河町、人口16000人の過疎の町を拠点とする「べてるの家」の精神障害者の活動が連載されていました。

8/29「言葉と自分 取り戻す(3度の飯よりミーティング)」

8/30「商売 地域と心結ぶ(安心してサボれる職場作り)」

9/3「病棟から共同生活へ(12の共同住宅)」などの内容で、全国から350人が集う町の名物「幻聴妄想大会」や月に100回をこすミーティングのこと、みんなで始めた昆布販売の仕事のこと、仲間と暮らす地域での生活のことなどが記事になっています。

新聞記事はワークみなとの壁に貼ってあります。時間のある方はぜひ読みに来てください。

# グリーンス

## これからの予定

9/4(水) 西ブロック合同レクリエーション  
「なにわの海の時空間」

9/7(金) 園芸作業 15:30~  
閉店後、店の前に置いているプランターを秋の花に植えかえます。サロンの時間帯に作業をしますので、興味のある方、ぜひ参加してください!

9/14(土) グリーンスにて家族会 15:00~

## レストラン・グリーンス

作業所グリーンスでは、バイキングスタイルでランチを提供するレストランを運営しています。

最近、グリーンスに異変が・・・!

みんなで力を合わせてがんばってきた甲斐があったのでしょうか。このところ妙に(?)お客さんが多いのです。小さな店ということもあり、満席になって入りきれないお客さんをお断りする日も少なくありません。

お客さんが多い日は、店舗、厨房はてんでご舞いの大騒ぎ。サラダ、パン、おかずの補充、食器を下げる作業、食器洗い、お茶やスープのサービング、レジ・・・これらをみんなで分担して作業します。お客さんに相席をお願いしたりするのも、なかなか気を使う大変な仕事です。

午後1時少し前、昼休みがそろそろ終わる時間になると、お客さんは潮が引いたように、それぞ

れの職場に戻って行き、我々もホッと一息。煙草を一服、お茶を一服・・・。

グリーンスのお客さんは常連さんが7割くらい。天保山界限で働く人がほとんどです。海遊館のスタッフの方も最近よく来てくださいます。

グリーンスは障害者の作業所であることを特に看板にしているわけではありません。最初は知らずに来店された方が、私たちの働く姿を自然に受け止め、また来てくださる—こんな嬉しいことはありません。

この店をひいきにしてくださるお客さんを大切に、これからもがんばりたいと思います。会員の皆様もレストラン・グリーンスにぜひ一度、足をお運びください。

## クッキング教室の予告お知らせ

グリーンスでは、一人暮らしの方、これから一人暮らしを考えている方を対象に、超お手軽料理の勉強会をしようと思っています。

第1回目は「包丁いらすの超簡単クッキング」10月から月一回ぐらいの頻度で開催します。乞う、ご期待!

## サロンより

サロンでは、みんなでいろいろな話をします。スポーツの話、テレビドラマ、好きなミュージシャンの話、ときには政治経済の話も・・・。最近では、病気のこともよく話題にのびります。どんな薬を飲んでいるかに始まり、幻聴、妄想の話まで。荒唐無稽な話も飛び出します。茶化しながらも、お互いにそれとなく気遣いあっているのがわかります。

こんな話に、皆さん参加してみませんか?

## グリーンスの サロンは、月・火・水・金 (午後3時~5時)

グリーンスで気の置けない仲間と、  
おしゃべりタイム!  
楽しいひと時を一緒に過ごしませんか

利用料100円、  
コーヒー・紅茶・たまにお菓子つき

